

数々の名ジャンパーを生んだ

大倉山ジャンプ競技場

冬のスポーツの花形といえば、ジャンプ競技。その国内の中心的なラージヒル競技会場となっている、「大倉山ジャンプ競技場」について紹介します。

大倉山ジャンプ競技場の誕生のきっかけは、昭和三年十一月、スポーツの宮様といわれた故秩父宮ちちぶのみやが来道されたことに始まります。そのとき、札幌に国際級の大型のジャンプ台が必要なことを話されました。翌年、ノルウエーからジャンプ台造りの第一人者ヘルセツト中尉ら三人が来札。今の大倉山に六十層級のジャンプ台を造ることに決めました。

完成したのは、六年。寄贈者の大倉喜七郎男爵おおくらきしちろうの名をとり、「大倉ジャンプエ」と名付けられました。ジャンプエとはドイツ語でジャンプ台のことです。

開場式は七年に行われました。観客の期待を集めた初飛びの記録は、三十四層に終わりました。その後大倉ジャンプエは、二十六年に八十層級、三十九

年に九十層級に改造されました。四十五年にはオリンピックのため、風の影響を受けづらいように直されました。このとき名称が「大倉山ジャンプ競技場」に変わりました。五十七年にリフトがで

き、一般に開放されています。六十一年には、踏み切り台などが少し直されました。

平成十二年には、リニューアルされ、ジャンプの迫力を体験できるジャンプシミュレーターなどを備えた「ウィンタースポーツミュージアム」もオープン。今は観光地としても有名で、毎年たくさんのお客がその雄大な姿を見に訪れます。



大倉山ジャンプ競技場

(平成六年一月号・第七回)